

スワラの呪い

テリーム・ハサン (パキスタン)

パシュトゥンワリは、パキスタンの北西国境州に住むパシュトゥン人がよって立つ生活規範です。彼らは親切で、歓待と寛容を規範としています。しかしながら、この民族にはこれらの代表的な特徴のほかに、忌まわしい慣習もはびこっています。今回は、反目しあう団体間の紛争解決の取り決めとして、未成年の少女が嫁に差し出されるスワラと呼ぶ文化慣習について取り上げたいと思います。

パシュトゥン人は自らの名誉を守るため、バドラ（復讐）で恨みを晴らします。そのような紛争を解決し、それ以上の流血を避けるために、娘や姉妹が差し出されます。スワラはジルガ（非公式な部族村落長老会）が認めた紛争解決手法です。この慣習は、なにもパシュトゥン人特有のものではありません。バルチスタン、中央パンジャブ、シンドの各州にも、これとほぼ同一の慣習を持つ人びとがいます。

シンド州のシカルプルで 2006 年 5 月、モハンマド・ラムザンという男性が、ジルガに従って、地元の封建領主に水牛 3 頭の代金支払いに代えて 9 歳と 1 歳の 2 人の娘を差し出すよう命じられ、彼は書面で同意しました。しかし、幸いにも、シンド州の高等裁判所の介入でこの契約は阻止されました。

もし、家族にスワラの対象となる女の子がいなければどうなるのでしょうか？アフサ・アリは、ペシャワルの市場で 13 歳の少女を 53,000 パキスタン・ルピー（約 72,000 円）で買いました。

都市部においてでさえ、女性は紛争解決の犠牲になっています。最近、10 代の娘を持つ父親が、娘と妻の失踪届を出しました。彼は、50 才の無教養な男に娘を嫁がせることに同意していたのです。誰の目にも女性たちの行方不明の理由は明らかですが、悲しいのは、彼女たちの無力さです。

このような状況は、この国の宗教の教えに全く反したものです。イスラム教は平和の宗教であり、身近な家族から親戚、国家、世界まで、またすべての創造物に対する愛、調和、寛容、親切を教える宗教です。また、イスラム教において、女性は深い敬意を払われる存在です。コーランが、善行に対する報奨と非行に対する罰を男女に等しく約束していることは明確です。預言者は、イスラム教徒は男女とも等しく知識を追求すべきだとしています。イスラム教では、アッラーとの結びつきに関する限りにおいて、男女の間に全く差別はなく、女性は人類の子孫繁栄における、男性の対等なパートナーとして認識されています。等しい責任を果たす代わりに、等しい権利が与えられます。

コーランには次のようにあります。

「そして、神は彼らの祈りを受け入れ、次のように応えられた。『汝らのいかなる働きも、私は決して無にしはしない。男も女も分け隔てはしない。男女はもともと対である…』と。」

(3:195)

また、女性の地位については、以下のようにコーランの教えにはっきりと示されています。

「元来、女は自分が夫に対してなさねばならぬのと同じだけのよい待遇を夫から受ける権利がある。しかし、やはり男の方が一部の相続の場合において女より一段高いことは高い。」(2:228)

この「一段」というのは、何ら優位性を認めたものでも暴力による女性の統治を許可したものでもありません。これは男性に課される、より大きな責任に釣り合うよう、埋め合わせをするもので、より大きな責任に対し、経済面で女性より一段高くするというものです。人間性や性格が上であるという意味ではありません。また、一方が他方に優越することでもありません。

また、両性の平等を保障する法律も作られています。国連女子差別撤廃条約においても、パキスタン憲法においても、明確に性に基づく平等を保障しています。

では、パキスタン社会では何が起きているのでしょうか？多くの優れた仕事もなされていますが、パキスタン女性がおかれた状況はというと、男性が「コインを投げて表なら女の負け、裏なら男の勝ち」というものの考え方をするような、相変わらずの男性支配文化です。

謝辞 本稿は、スワラ制度に反対する NGO 民族メディアと開発 (Ethnomedia and Development) の実行責任者で人類学者の、サマール・ミナラ氏から提供を受けた事実から編集しました。